



「全てのこどもが笑顔で生き生きと学ぶ学校」の実現に向けて

「今」が楽しく明日が待ち遠しくなる学校を目指して

東京都教育大綱(令和7年3月発表)

おおた教育ビジョン(令和6年度～令和10年度)

「誰一人取り残さず、すべてのこどもが将来へ希望をもって、自ら学び、育つ教育を目指して」『東京型教育モデル』の重要な事項
・一人ひとりの個性や能力にあった最適な学びの実現
・Society5.0時代を切り拓くイノベーション人材の育成
・世界に羽ばたくグローバル人材の育成
・教育のインクルージョンの推進
・こどもたちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実
・こどもたちの学びを支える教師力・学校力の強化

～笑顔とあたたかさあふれる 未来を創り出す力を育てる～
・予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成する。
・世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成する。
・一人ひとりの個性と能力を発揮させるための基盤となる力を育成する。
・学校力、教師力を向上させる。
・自分らしくいきいきと生きるための学びを支援する。
・学校、家庭、地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくる等。

目指す児童像

- すすんであいさつや返事ができる子
○目標をもち、努力を続ける子
○自他のよさを認め、自分も友達も大切にできる子
○感謝の念をもち、自分にできることを返していく子

【児童の実態】(課題となること)
・主体的な学び
・基礎的な生活習慣
・基礎的な学力
・コミュニケーション能力
・不登校や支援が必要な児童への対応

【課題を解決するために】
☆教師の授業力向上
☆主体的性を育てる実践と評価
☆家庭、地域との連携
☆キャリア教育の充実
☆個別最適な学び
☆学級活動の充実

学校教育目標

◇考える子 ◇やさしい子 ◇つよい子

目指す学校像

【保護者の願い】

- ・人にやさしく思いやりのある子
・自分の意志をしっかりと持ち、気持ちを伝えられる子
・「チャレンジ」「健康で」「感謝」「笑顔」「楽しい」といった姿が見られる子

- 1 全てのこどもが笑顔で生き生きと学ぶ学校の実現を目指す
夢を育む感動体験を経験することにより、「好奇心」「向上心」「公共心」を育み、確かな学力と思いやりの心を身に付けさせる。
2 ウェルビーイングの深化を目指す
「人格の形成を目指し、生きていくうえで必要となる「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人間性を育むとともに、その基盤の上に成り立つ、みんなの幸せな未来を創造する力を育てる。
3 教育の専門職としての誇りと自覚をもった教師集団を目指す
4 コミュニティスクールとしての役割を担う

考える子～キャリア教育の充実～

やさしい子～人権教育の充実～

つよい子～健康教育の充実～

- (1) 未来を創造的に生きる力の育成
① 主体的に考え、行動し、協働していく力の育成
・学級活動、キャリア教育の実践により、児童の自主性・自発性の伸長と集団の一員としての自覚とよりよい人間関係の育成を図る。
② 課題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成
・ICT教育、プログラミング教育、独自教科「おおたの未来づくり科」を実践する。
(2) 世界とつながる国際都市おおたを担うグローバル人材の育成
・外国語活動および外国語科などの英語の授業を中心にコミュニケーション能力を高める。
・外国語教育指導員を活用し外国の言語や文化についての理解を深める。
(3) 確かな学力の育成
① 思考力を高め、主体的に学ぶ力を育てる。
② 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育てる。
③ 豊かな表現力、発表力を育てる。

- 豊かな心の育成
① 児童を第一に考えた、心理的安全性の高い学年・学級づくりを行う。
② 生命尊重、人権尊重を向上させ、自律した人間としてよりよく生きる力を育てる。自己肯定感・自尊感情の育成。認め、ほめる指導による自他を大切にできる心情や態度を育てる。
③ あいさつの指導を継続する。
④ 多様な他者と関わる活動を意図的に設定する。(夢を育む体験活動の場づくり)
・同学年、異学年交流、委員会やクラブ活動、副籍児童との交流、小中連携、保育園・幼稚園との交流を通じてはたらくことの楽しさや大切さを味わうことができるようにする。
⑤ 校内委員会を核とした特別支援委員会を充実させる。
⑥ 定期的な「いじめアンケート」「いじめ防止対策委員会」による未然防止と早期発見・早期対応を行う。

- 健やかな体の育成
① 基本的な生活習慣の確立
・家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」月間を行う。
・保健指導、保健学習、学校保健委員会、がん教育による健康指導を充実させる。
② 運動を日常化、習慣化させ、体力の向上を図る
・外で遊べる日には体を動かすように指導する。
・長縄、短縄、持久走(マラソン月間・校内マラソン)等全校取組、体育的活動を充実させる。
③ 体育・健康教育授業地区公開講座の実施
④ 大田区小学生駅伝大会への取組
⑤ 都体力調査の実施
⑥ 食への理解による食育の充実

安全・安心の確保

特別支援教育の充実

魅力ある教育環境づくり

- ① 「徳持スタンダード」を全教員が把握し一致した生活指導を行い改善を図る
② 事故や怪我の未然防止に努め、事故対応は迅速に誠意をもって行う
・かけがえのない大切な「いのち」であることの指導を徹底させる。
・常に災害時等の対応を念頭に置き、毎月の避難訓練・安全点検・薬物乱用防止教室・交通安全教室・セーフティ教室等を実施する。

- ① 特別支援委員会を開催し組織的に取り組む
・特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に就学支援シートを活用した個別支援計画の作成・実施する。
・児童一人ひとりに寄り添う適切かつ迅速な支援を行うことで、児童の不安や悩みを和らげる。
・学校特別支援員と補助員を週に4日配置。
② 特別支援教室(サポートルーム)においては巡回校として、特別支援専門員と連絡調整し主に集団適応能力の伸長を図る
③ 不登校対策、いじめ防止、自殺防止教育を充実させる

- ① 学校力・教師力の向上
・児童の人権を尊重し、共感的理解に基づいた指導を行い魅力的な教師集団として全教育活動に取り組む。
・日常的に遵法意識を徹底し、服務事故の防止に努める。
・校内・校外の研修を通して、自己の課題の解決を目指すと共に、自己研鑽によって、自らの力量を高めていく。
・授業改善のPDCAサイクルを確立する。
・保幼小中一貫教育を推進する。
・働き方改革を推進する。
・教職大学院連携校として教員の資質向上を目指す。
② 学習環境の充実
・教師の言語活動を整え、教育公人としての気質を高める。
・教室の内外環境を整備し、清潔で落ち着いた学習ができる環境をつくる。
③ コミュニティスクールとして地域の核となる学校

# 大田区徳持小学校学校経営計画

令和8年4月  
大田区立徳持小学校  
校長 山本 由美

## 1 はじめに

学校の使命は（プロとして教育に携わるものとしての使命）  
未来を担う（未来を託す）子供たちの可能性を高め、健やかな成長を支えること。  
今学校に求められていることは、  
予測困難な時代をたくましく生き抜き、多様性を理解・尊重し共生社会の作り手となり、持続可能な社会の作り手となることもたちの育成である。  
社会的背景として、Society5.0 の時代、人口減少・少子高齢化、経済のグローバル化、情報通信技術の発達が挙げられる。学校の課題は不登校対策、いじめ・体罰・虐待、STEAM 教育の推進、感染予防や大規模自然災害等の対策、働き方改革の推進等がある。

### 学校経営の基本方針

- 1 全てのこどもが笑顔で生き生きと学ぶ学校の実現に向けて  
夢を育む感動体験を経験することにより  
「好奇心」「向上心」「公共心」を育み、確かな学力と思いやりの心を身につけさせる。  
「今」が楽しく明日が待ち遠しくなる学校を目指して
- 2 ウェルビーイングの深化を目指す  
「人格の形成を目指し、生きていくうえで必要となる「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人間性を育むとともに、その基盤の上に成り立つ、みんなの幸せな未来を創造する力を育てる。
- 3 教育の専門職としての誇りと自覚をもった教師集団とする
- 4 コミュニティスクールとしての役割を担う

## 1 学校教育目標

○考える子      ○やさしい子      ○つよい子

## 2 目指す学校像

- ☆こどもたちの笑顔と喜びがあふれ、活力ある誇れる学校  
「すすんで学び、分かる・できる喜び」「関わる喜び」「認められる喜び」「成長する喜び」が味わえ、毎日通いたくなる学校
- ☆保護者・地域が信頼をよせ、誇れる安心・安全な学校  
安全管理が徹底され、いじめや不登校、体罰、服務事故のない学校。
- ☆教職員が誇りをもって生き生きと働く学校  
こどもの成長を共に喜び、切磋琢磨し合える教師集団が協働する学校。

## 3 目指すこども像

- ☆すすんであいさつや返事ができる子
- ☆目標をもち、よく考え、努力を続ける子
- ☆自他のよさを認め、自分も友達も大切にできる子
- ☆感謝の念をもち、自分にできることを返していく子

### 【保護者の願い】

- ・人にやさしく思いやりのある子
- ・自分の意志をしっかりと持ち、気持ちを伝えられる子
- ・「チャレンジ」「健康で」「感謝」「笑顔」「楽しい」といった姿が見られる子

## 4 目標実現のための主な方策

### （1）未来を創造的に生きる力の育成

- ☆教育基本法が掲げる「人格の形成」をめざし、「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人間性を育むとともに、その基盤の上に成り立つ、みんなの幸せな未来を創造する力を育成する。
- ☆STEAM 教育「S 科学 T 技術 E 工学 A 人文社会・芸術・デザイン M 数学教育を推進し、教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な教育を行う。
- ☆未来を創造する力を育てるため、独自教科「おおた未来づくり科」の取組実践を図る。
- ☆全活動を通してキャリア教育を推進し、主体的に取り組む児童を育てる。

#### ①主体的に考え、行動し、協働していく力を育てる

- ・学級活動の年間計画を立て、計画的に実践する。
- ・特別活動を基にキャリア教育の実践を図る。

◎話し合い、計画し、合意形成の仕方を学び、集団決定したことを実践する活動を行い、児童の自主性・自発性を伸ばすとともに、集団の一員としての自覚とよりよい人間関係の育成を図る。

## ②課題を解決する力、新たな価値を創造する力を育てる

- ・ICT教育、プログラミング教育への理解を深め、企業と連携して教材開発をする。  
各教科で育む思考力を基盤としながら、年間指導計画に従ってプログラミング的思考を育む
- ・独自教科「おおたの未来づくり科」の実践を行う。  
1年～4年は、独自教科「おおたの未来づくり科」につながる取組を行う。  
5、6年生はより良い実践となるように取り組む。

### 【地域と連携した学習活動】

- 1年 公園たんけん
- 2年 まちたんけん、図書館見学、警察署見学など
- 3年 介護について探求し、近隣介護施設との直接交流
- 4年 大田区清掃事務所による環境教育、障がい者理解教育
- 5年 「地域とともに歩む」→「地域創生」地域の課題を発見して地域の方とともに解決する学習
- 6年 授業パートナーとともに地域創生、ものづくり
- ・キャリア教育の集大成として、外部人材を活用して、職業インタビュー、キャリアカウンセリング等を実践する。

### (2) 世界とつながる国際都市おおたを担うグローバル人材の育成

- 外国語活動、外国語科などの英語の授業を中心に、コミュニケーション能力を高める。
- ・外国語教育指導員を活用し、外国の言語や文化についての理解を深める。
- ・3年生以上は外国語担当教員が中心となり（講師）外国語教育指導員を活用した効果的な指導を行う。

### (3) 豊かな心の育成

- ① 生命尊重、人権意識を向上させ、自律した人間としてよりよく生きる力を育てる。自己肯定感・自尊感情の育成
- ・**児童を第一に考えた、親身で温かな指導による学年・学級づくり**
- ・いかなる命も大切に、人として守らなければならない規律を理解できるように指導し、規範意識の向上を図る。（徳持スタンダードの徹底）
- ・偏見や差別、様々な人権問題について理解し、認め・ほめる指導による自他を尊重する心情や態度を育てる。
- ・特別の教科道徳の授業を主として、日常から道徳的な実践力を養う。  
毎月全教員が同時期同内容項目で行う道徳科一斉授業「徳持ハートウィーク」の実践により、確実な道徳授業実践と指導内容の向上を図る。
- ・今年度の道徳地区公開講座は「生命尊重」をテーマに行い、家庭と地域が一体となった「心の教育」を推進する。
- ② あいさつの指導を継続する。
- ・あいさつはコミュニケーションの基本ととらえ、生活指導の目標に掲げ、自らすすんであいさつできる児童を育成する。←教職員が積極的にあいさつする。
- ・登校時のあいさつ運動を全校児童対象に行う。（学級ごとの輪番制）PTAや地域の方へも協力を求めていく。
- ③ 多様な他者との関わる活動を意図的に設定する、（夢を育む感動体験の場づくり）
- ・同学年、異学年の交流、委員会やクラブ活動、副籍児童との交流、保育園・幼稚園との交流などの活動を通して、互いのよさに気づき、人と関わることの楽しさを味わわせ、思いやりの心を育てる。
- ・給食やそうじ、日直などの当番活動、係活動、委員会活動、クラブ活動等の仕事を通して、友達と協力してはたらくことの楽しさや大切さを味わうことができるようにする。
- ・3年生から6年生は年に2回の「WebQU調査」を実施分析し、他者との関わりについて指導に生かす
- ④ 校内委員会を核とした特別支援委員会の充実
- ⑤ 定期的な「いじめアンケート」を実施し、「いじめ防止対策委員会」による未然防止と早期発見・早期解決
- ・読書活動を推進する（読書月間を年に2回実施）  
読書学習司書を活用し、読書環境の整備、国語科の授業の平行読書の実施、池上図書館からの団体貸出の継続を行う

### (4) 確かな学力の育成

- ① 思考力を高め、主体的に学ぶ力を育てる
- ・各教科、学級活動、特別の教科道徳、学校行事などをカリキュラムマネジメントした年間計画を作成し、計画的に実践する。
- ・学んだことを生かし、主体的に取り組める機会を設け、学びに向かう力を育てる  
児童の発意・発想を生かした学習発表の場を実施する
- ② 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育てる
- ・児童の実態を踏まえた指導の焦点化を図り、個別最適な学びとなるようにする。
- ・算数の習熟度少人数指導、タブレット端末を活用して、「東京ベーシックドリル」等を実施する。
- ・理科教育の充実を図るため、理科指導専門員による授業観察や授業実践を行い、3年から6年までの各学級で理科支援員を活用する。
- ・3年生以上で学習指導補助員を活用し、放課後補習を行い、基礎となる学力の定着を図る。
- ・全児童対象に年に1回大田区小学漢字検定を実施し、漢字の定着を図る。
- ・家庭学習が習慣化となるように保護者への啓発を行う。
- ・個に応じた指導を行い習熟度別指導（算数）、問題解決学習・ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業や体験活動の充実を図る。

### ③豊かな表現力、発表力を育てる

- ・英語で伝えあう活動、学級会での話し合い活動、社会科、生活科・総合的な学習の時間で学んだことの発表、たてわり班活動、スピーチ、委員会活動などの場を通して豊かな表現力、発表力を育てる。
- ・タブレット端末の活用、各教科等の教材の活用を通して、読み解く力・書き表す力の伸長を図る。

#### (5) 健やかな体の育成

- ① 基本的な生活習慣を確立する。
  - ・家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」月間と歯磨き指導を行う。
  - ・保健指導・保健学習・学校保健委員会、がん教育による健康指導の充実
- ② 運動を日常化・習慣化させ、体力の向上を図る。
  - ・外で遊べる日には体を動かすように指導する。
  - ・長縄、短縄、持久走（マラソン月間・校内マラソン）等の全校取組と体育的活動の充実を図る。
- ③ 体育健康教育の充実
  - ・年に1回体育健康講座を講師を招待して地域・保護者と研修の機会を設ける。
- ④ 大田区駅伝大会への参加
- ⑤ 東京都体力調査を6月に計測し、体力向上の糧とする
- ⑥ 食育の充実を図る
  - ・食への理解による食育の充実

#### (6) 学校力・教師力の向上

☆教育の専門職としての誇りと自覚をもち、サービスの徹底を図り、教育目標の具現化を目指す魅力的な教師集団として、全教育活動に取り組む。

☆信頼されることを第一に愛情をもって指導や支援をしていく

☆すべての教育活動において生命を預かるという責任感と危機感をもって指導にあたる。

☆ウエルビーイングな職場環境の実現を図る。

- ① 校内研修・校内研究・OJTの充実を図る。
  - 「いじめ防止」「不登校対策」「教科研究」「人権教育」「アレルギー対策」「特別の教科 道徳」「ICT」などの研修を行い、共通理解のもと実践する。
- ② 授業改善のPDCAサイクルを確立し、指導に生かす。
  - 授業改善推進プランを作成し、授業改善のPDCAサイクルを確立する。
  - 日々の授業での学習達成状況及び大田区学習効果測定などの結果を分析し授業改善にあたる。
- ③ 個々の教員のよさを生かし、コンプライアンスに対する意識を高め、各教員の持ち時数の軽減や授業準備の効率化を図る。
  - ・教務主幹、生活指導主幹、研究主任、校務改善経営主任の軽減講師を活用し、教員の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化を図る。
  - ・教職員のコンプライアンスの意識向上のため、週案簿に個人の目標を記載したしおりを作成し、普段から服務事故防止の意識を高める工夫をする。
- ④ 小中一貫教育を推進する
  - ・児童、生徒の情報を共有し、すべての子どもたちが健やかに成長できるように連携する。また地域の保育園幼稚園との連携を行う。
- ⑤ 働き方改革を推進する
  - ・副校長アシスタント、エデュケーションアシスタント、教員支援員、学校特別支援員、生活指導支援員、学習補助員、登校支援員等を活用する。
  - ・定時退庁日を月に1日以上決める。（各自が月に少なくとも1日は定時退庁することとする。）
  - ・1か月当たりの時間外在校等時間が80時間を超える教職員をゼロにするとともに、45時間を超える教職員の割合を前年度よりも減少させる。
  - ・年に20日間の年休取得を目指す。
  - ・男性も育児休業を取りやすい環境を整備し、月に1回、クリーンデスク日を設ける。
  - ・職員会議の時間を1時間以内とするようICTを活用する。
- ⑥ 教職大学院連携校として教員の資質向上を目指す

#### (7) 特別支援教育の充実

- ① 特別支援委員会を開催し組織的に取り組む
  - ・毎月1回特別支援委員会を開催する。
  - ・特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に就学支援シートを活用した個別支援計画の作成・実施を行う
  - ・児童一人ひとりに寄り添う適切かつ迅速な支援を行うことで、児童の不安や悩みを和らげる
  - ・学校特別支援員を週に4日、補助員を1日配置し、児童の支援を行う。
- ② サポートルーム（特別支援教室）においては巡回校として、特別支援専門員と連絡・調整をとり巡回指導教員と学級担任が協働することで児童が抱える困難さを理解し改善し、主に集団適応能力の伸長を図る。
- ③ 不登校対策・いじめ防止・自殺防止教育を充実する
  - ・不登校対策コーディネーターの役割を明確にし、担任や関係機関、登校支援員と連携し、登校が困難となっている児童や保護者の心に寄り添い対応を行い、改善を図る。

#### (8) 安心安全の確保

- ① 学校のきまりについて継続して指導を行う
  - ・「徳持スタンダード」を全教員が把握し、統一した生活指導を行い、児童の規範意識を育てる。
  - ・情報モラルの意識を高める
- ② 事故や怪我の未然防止に努める
  - ・授業計画において特に安全に配慮する内容項目を取り扱う際には週案簿に「安全指導」について明記し事故の未然防止に努める。
  - ・施設、設備の安全点検を毎月行い、日常から安全確認を実施する。
  - ・災害時の安全な避難行動を身に付けるように指導する。
  - ・「落ち着いて行動する」「話を聞く姿勢」を整え、事故や怪我の未然防止に努める。
  - ・アレルギー対応の徹底（担任を窓口とし、養護教諭、栄養士、食育担当と情報共有を毎月確実に行う。）

③ 事故対応は迅速に誠意をもって行う。

- ・「報告、連絡、相談」を教員内で習慣化する。
- ・マニュアルに沿って素早く行動する。
- ・首から上の怪我が生じた際には必ず保護者に連絡をする。(個人面談や保護者会の際には学校の対応について知らせる。)
- ・誠意をもった対応で、児童や保護者が安心できるようにする。(初期対応を丁寧に行う)

#### (9) 学習環境の充実

☆教師の言語環境を整える。公人としての教師の言葉は教育環境に大きく関与していることを自覚する

- ・教師のモラルに関する研修を行い、服務事故防止に努める。
- ・教室環境を整備し、清潔で落ち着いた学習ができる環境をつくる。
- ・学習意欲を高める児童作品の掲示等を行う。
- ・誤字脱字を確認し、児童の作品を掲示する際には人権に配慮する。
- ・四季の気配を感じられるように、学級園・花壇・校内の植栽、理科や生活科、総合的な学習の時間を活用して、児童とともに整備していく。

#### (10) 学校・家庭・地域の連携協働による地域コミュニティの核となる学校

- ① コミュニティスクールとしての組織を整える
- ② 学校情報の積極的な広報活動を行う
- ③ 家庭・地域との連携を深める
- ④ 学校防災拠点としての役割を果たす

〈東京都教育大綱（令和3年3月30日発表）〉

「誰一人取り残さず、すべての子どもが将来への希望をもって、自ら学び、育つ教育を目指して」『東京型教育モデル』の重要な事項

- ・一人ひとりの個性や能力にあった最適な学びの実現
  - ・Society5.0時代を切り拓くイノベーション人材の育成
  - ・世界に羽ばたくグローバル人材の育成
  - ・教育のインクルージョンの推進
  - ・子どもたちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実
  - ・子どもたちの学びを支える教師力・学校力の強化
- 〈「おおた教育ビジョン」令和6年度～令和10年〉では  
～笑顔とあたたかさあふれる 未来を創り出す力を育てる～
- ・予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成する
  - ・世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成する
  - ・一人ひとりの個性と能力を発揮するための基盤となる力を育成する
  - ・学校力、教師力を向上させる
  - ・自分らしくいきいきと生きるための学びを支援する
  - ・学校、家庭、地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくる等